



天下の至宝——陸心源遺書

静嘉堂文庫所蔵

宋

元

版

マイクロフィルム＋オンライン版

宋版一二七部 元版一三一部

全二五八部を一挙に展観

周禮卷第九

秋官司寇第五

鄭氏注

以爲民極乃立秋官司寇使帥其屬而掌
邦禁以佐王刑邦國禁所以防姦者也刑正之法孝經說曰刑者例也
過出罪施刑官之屬大司寇卿一人小司寇中

天下の至宝のマイクロロ化を慶ぶ

関西大学 外国語学部教授
図書館長 内田慶市

静嘉堂文庫所蔵の宋元版は中国学、東洋学のみならず他の学問領域からも珍重されてきた、まさに天下の至宝と呼ぶべき人類の知の遺産である。この度、その宋版(金版一部を含む)一二七部二、六二九冊と元版一三一部二、五五三冊、総計二五八部五、一八二冊がマイクロ版として蘇ったことは中国学を専門とするものの一人として誠に喜ばしい限りである。

この二五八部五、一八二冊はそのほとんどが稀覯本であり、天下の孤本と称されるものも少なくなく東アジア屈指のものであり、現存する最古の版本や、周禮、爾雅疏、唐書、説文解字、廣韻、歴代故事、外台秘要方、白氏六帖事類集など一八部の重要文化財も含まれている。これらを実際に静嘉堂文庫にまで赴いて閲覧するとなれば、相当の時間とエネルギー、それにそれ相応の手続きも必要となる。それが、このマイクロフィルム版の刊行によって、いとも簡単に目に行うことができるのだ。研究者にとってこれ以上の便宜はない。

静嘉堂文庫の宋元版本の多くは、清朝末期の蔵書家である陸心源の遺書であるが、陸心源の旧蔵書四万五千冊こそ静嘉堂文庫の中心を為すものであり、創設者岩崎彌之助の東洋固有の文化財を愛惜しその散逸を防ぐという意志がそこには現れている。その岩崎の意志を継承すべく、今回、マイクロフィルム版の刊行に踏み切ったその英断に対して、心からの拍手と感謝の気持ちを送りたいと思う。まこと、後世に伝えるべき「知の遺産」が保たれることになったということであり、斯界に裨益すること大であると確信するものである。

世界の宝を守る義挙

東京大学東洋文化研究所教授 大木 康

静嘉堂文庫に蔵される漢籍、とりわけ陸心源旧蔵の漢籍は、^{ひん}宋楼の名に背かず、宋元版をはじめとする多くの貴重な書物を擁することで見られる。それは世界の宝ともいえるコレクションである。陸心源旧蔵書のすぐれている点は、宋元版という書物の貴重さばかりではなく、それら書物の来歴の正しさにも求められる。

書物のたどってきた歴史は、書物に捺された印記によってうかがうことができる。ほんの一例を挙げるならば、南宋初期の刊本である唐の詩人王維の詩集『王右丞集』。そこには、徐乾学(乾学之印)、揆叙(謙牧堂書画記)、季振宜(季振宜蔵書ほか)、黄丕烈(黄丕烈印ほか)、顧千里(顧千里経眼)、汪士鐘(汪士鐘印)などの印を見ることが出来る。これらの人々は、清朝一代を通じて名だたる蔵書家・目錄学者たちであり、その彼らがいずれもこの書物を手にとってみていたことが知られるのである。陸心源旧蔵書には、ほかにも明代の文徵明、項元汴、また清代の錢謙益、毛晋、朱彝尊、張金吾など、錚々たる人々の旧蔵書を見ることが出来る。宋元版という古さに加え、書物が経てきた歴史がまた貴重なのである。このようにして、数百年、あるいは千年以上の長きにわたる人々の愛着と努力によって守られてきた結果、この書物が現在この世に存在している。その貴重な書物に、われわれの時代において損傷を加えるわけにはいかない。

われわれは書物を愛する。だが一方で、書物は人が手に取ることによって確実に傷む。この矛盾を解決してくれるのが、複製の技術である。書物の内容の問題は、複製本によって、かなりの場合解決可能である。ここに静嘉堂文庫所蔵本のマイクロフィルム化につき豊富な経験を有する雄松堂書店が、漢籍宋元版のマイクロフィルム版を出されることは、書物の閲覧を容易にする意味においても、また書物を守り後世に伝える意味においても、きわめて大きな意義がある。世界の宝を守る義挙といえるだろう。



24頁書 南宋時代(重文)



64外台秘要方 南宋時代(重文)



75白氏六帖事類集 北宋時代(重文)

中国古版の標本たるべき書物群

京都大学名誉教授 高田時雄

静嘉堂文庫の宋元古版はもと帰安(現在の浙江省湖州市)の陸心源が蒐集し、その蔵書楼たる皕宋楼の珍藏であつたが、明治四十年(一九〇七)三菱財閥の第二代総帥岩崎彌之助によつて一括購入され、日本に齎された。杭州の丁氏八千卷楼、常熟の瞿氏鉄琴銅劍楼、山東聊城の楊氏海源閣と並んで、清末の四大蔵書楼と称された陸氏の皕宋楼は、その名の如く、皕すなわち二百部の宋版を含むことで、天下にその名が轟いていた。しかるに陸心源の死後、その蔵書が挙げて日本の有に帰することになったことは、当時の中国文化界に巨大な衝撃を与えたもので、一個の社会的事件としてひとしきり喧伝された。近代以降、多数の宋元古槧を含む善本が中国から日本に舶載されたが、岩崎氏による皕宋楼の購得ほど社会の耳目を集めた出来事はまずないと言つてよい。もちろん社会的事件として重大であるばかりではない。皕宋楼の宋元版は江浙の諸名家に伝存した、来歴の明かな善本であつて、海内の孤本も少なからず、すべて中国古版の標本たるべき書物群である。日本には五山の禅僧が宋元の同時代に舶載した古版も今日まで遺存するほか、幕府の紅葉山文庫や昌平黉の蔵書の精華が今日宮内庁書陵部の蔵書として伝わっているから、静嘉堂文庫以外にも日本国内に所蔵される宋元版は決して少なくはない。しかし静嘉堂文庫の宋元版の数量は、おそらく一個の図書館の収蔵として、明治以前から国内に伝存する宋元版の総量に匹敵するものであり、その全貌の公開は長く日中学界の鶴首するところであつた。静嘉堂創設百周年記念の『静嘉堂文庫宋元版圖録』が公刊されているので、容易にその書影に接することは出来る。しかし今回、『宋元版圖録』収録分に増補を加え、宋版一二七部、元版一三一部、総計二五八部の全冊を、マイクロフィルム版として公刊されることになったのは、画期的な出来事であり、実に学界の盛事といえよう。

中国古籍の名宝

宋時代・元時代出版書の全貌

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授 高橋 智

世界に先駆けて印刷文化を成熟させた中国が最も誇る文物こそ宋版であり、そしてそれに次ぐものが元版である。中国では、一点の宋版を所蔵することによつて、その図書館は名館となる。清朝の蔵書家は、一点の宋版を所蔵しなくても、蔵書目録作製の際には、借りて来てでも目録に宋版を載せたかつた。「百宋一塵」と百の宋版を集めて誇る蔵書家、「千元十駕」とそれに対抗するに足る元版を、と誇る蔵書家、皆、目指すところは宋版であつた。清末の四大蔵書家の一人、浙江の陸心源(一八三四―一八九四)は、上海の邵氏宜稼堂の書が散じると聞くや、すぐさま飛んでいったが、広東の丁日昌(一八二三―一八八二、書齋号は持静齋)に先を越された感があつた。しかしここから陸氏の宋元版収集は拍車がかかり、遂に宋版二百点を収集したという意味で、書庫を皕宋楼と号した。持静齋は後に散じたが、皕宋楼は今に岡本の静嘉堂書庫に健在である。

写本から刊本へと移り変わる変革の象徴である宋版は、古典籍のテキスト源流研究や、印刷史の貴重な軌跡としての研究など、様々な視点から見直されてきているが、なお原本での閲覧は叶わなくとも、複製によつて一点一点丁寧に頁を繰っていくと、そこに得も言われぬ奥深い文化史、中国および中国人の原点とでも言うべきものを感じ取っていくことができる。

中国では、今、国家事業として、「中華再造善本」を出版、宋・元の善本はもとより明・清・他民族の善本を複製し、研究その他に供している。皕宋楼宋元版のマイクロフィルム版による全貌公開は、これに類する大事業と言つても過言ではない。世界に現存する一千部を超える宋版のうちの、珠玉の部分にあたる静嘉堂所蔵本は、東アジアの研究にとって欠かすことのできない基幹資料であり、主たる研究機関での常備を願つて止まない。

(掲載は五十音順)



101 南華真經注疏 南宋時代(重文)



105 王右丞文集 南宋時代(重文)



119 三蘇先生文粹 南宋時代(重文)

刊行にあたって

静嘉堂文庫

唐滅亡後初の統一王朝「宋」(九六〇～一二七九)に、どのようなイメージをお持ちだろうか。欧陽脩、王安石、蘇軾、黃庭堅など後世に名を遺す多くの偉大な政治家、文人たちが活躍し、新しい学問、文化が生み出された宋時代。殊に印刷の歴史の中で「宋」の名は特別な重みをもっている。唐代に始まったとされる木版印刷が、香り高い大輪の花を咲かせたのがこの宋代であった。特に国子監などの公的機関で刊行された書籍は厳密な校訂を経た正確な内容を持ち、彫り・摺り共に技術の粋を集めたものが多い。清新の氣溢れる宋文化を支えたのはこの宋版だったといっても過言ではない。宋の後を継いだ元朝でも書院や路儒学、家塾の発達などにより印刷は隆盛を極めた。そしてこれら宋版・元版が我が国の学問・思想界に多大な影響を与えたことは言を俟たない。

静嘉堂文庫所蔵漢籍の中で最も大きな柱となっているのが、清朝末期四大蔵書家の一人、陸心源(一八三四～一九四)の旧蔵書である。帰安(浙江省呉興県)出身の陸心源は武人として活躍する傍ら学問を好み、多くの貴重書を蒐集した。没後、清朝末期の大動乱の中で、蔵書の維持管理が困難となつた子息たちより日本にコレクション売却の打診があり、明治四〇年(一九〇七)、静嘉堂文庫の創設者岩崎彌之助(三菱第二代社長、一八五一～一九〇八)が購収。約四四、〇〇〇冊の陸心源旧蔵書が文庫の所蔵となった。そして宋元版約五、〇〇〇冊の大半はこの中に含まれているものである。その後、静嘉堂では学会の要望に応え、『静嘉堂秘籍志』(大正六年(一九一七))、『静嘉堂宋本書影』(昭和八年(一九三三))を刊行。また平成四年(一九九二)、文庫創設百周年記念事業として作成した『静嘉堂文庫宋元版圖録(解題篇・圖版篇)』(汲古書院製作)には、宋元版全点の書誌的情報を掲載した。

現在、宋元版の閲覧は文庫内でのマイクロフィルム閲覧に限定されている。原本保護のためのやむを得ない措置であるが、この度、文庫所蔵本のマイクロフィルム出版事業を永年に亘り担当していただいている雄松堂書店の全面的な協力のもと、宋元版全点のマイクロフィルム版の出版に踏み切ることとなった。ひとり漢字文化圏のみならず世界の学術・思想界において掛替えのない宝であるこれらの書物が、今後十二分に活用され、斯界に新たな光を灯してくれることを心より願っている。

静嘉堂文庫について

静嘉堂は、岩崎彌之助(一八五一～一九〇八 彌太郎の弟、三菱第二代社長)と小彌太(一八七九～一九四五 三菱第四代社長)の父子二代によつて設立、拡充され、現在、国宝七点、重要文化財八十三点を含む、およそ二十万冊の古典籍(漢籍十二万冊・和書八万冊)と六千五百点の東洋古美術品を収蔵している。図書を収蔵する静嘉堂文庫と、平成四年(一九九二)に開館した静嘉堂文庫美術館から成る。

岩崎彌之助は、明治期の西欧文化偏重の世相の中で軽視されがちであった東洋固有の文化財を愛惜し、その散亡を怖れ、明治二十年(一八八七)前後から本格的に古美術品の蒐集を始めた。また明治二十五年には、学問の師である歴史学者重野成斎(一八二七～一九一〇)の修史事業を援助するため、自邸の傍らに文庫を設け、重野を文庫長に迎え、史料となる古典籍の継続的な購入を開始した。これが静嘉堂文庫の始まりとなる。次いで、小彌太の請により諸橋轍次(一八八三～一九八二)が文庫長に就任。昭和十五年(一九四〇)、財団法人を設立して研究者への公開を開始した。戦後の一時期、国会図書館支部として公開事業を継続したが、昭和四十五年(一九七〇)、財団に復帰。平成二十一年(二〇〇九)には公益財団法人に認定された。



岩崎彌之助



岩崎小彌太

經部

- 1 詩〔集傳〕 宋朱熹撰
- 2 新刊直音傍訓纂集東萊毛詩句解 宋李公凱撰
- 3 毛詩學要圖 漢鄭玄注
- 4 周禮 〔附音重言重意互註本〕 漢鄭玄注
- 5 周禮 纂圖互註周禮 漢鄭玄注 唐陸德明釋文
- 6 纂圖互註禮記 漢鄭玄注 唐陸德明釋文
- 7 〔禮記學要圖〕 漢鄭玄注 唐陸德明釋文
- 8 禮書 宋陳祥道撰
- 9 春秋經傳集解 晉杜預注
- 10 春秋經傳集解 晉杜預注
- 11 春秋經傳集解 晉杜預注
- 12 樂書 宋陳騫撰
- 13 爾雅疏 〔單疏本〕 宋邢昺奉敕撰
- 14 說文解字 漢許慎撰 宋徐鉉等奉敕校
- 15 廣韻 〔大宋重修廣韻〕 宋陳彭年等奉敕重修
- 16 廣韻 〔大宋重修廣韻〕 宋陳彭年等奉敕重修

史部

- 17 史記 漢司馬遷撰 宋裴駟集解 唐司馬貞索隱
- 18 漢書 〔後漢書合刻本〕 漢班固撰 唐顏師古注
- 19 漢書 漢班固撰 唐顏師古注
- 20 漢書 漢班固撰 唐顏師古注
- 21 後漢書 〔漢書合刻本〕 宋范曄撰 唐李賢注 〔志〕晉司馬彪撰 梁劉昭注補
- 22 後漢書 宋范曄撰 唐李賢注
- 23 後漢書 宋范曄撰 唐李賢注 〔志〕晉司馬彪撰 梁劉昭注補
- 24 吳書 〔專刻本〕 晉陳壽撰 宋裴松之注
- 25 國志〔三國志〕 晉陳壽撰 宋裴松之注
- 26 晉書 唐房玄齡等奉敕撰 何超晉義
- 27 宋書 梁沈約撰
- 28 南齊書 梁蕭子顯撰
- 29 梁書 唐姚思廉等奉敕撰

- 30 陳書 唐姚思廉等奉敕撰
- 31 魏書 北齊魏收奉敕撰
- 32 北齊書 唐李百藥奉敕撰
- 33 周書 唐令狐德棻等奉敕撰
- 34 北史 唐李延壽撰
- 35 唐書 宋歐陽脩等奉敕撰

- 36 資治通鑑 宋司馬光撰
- 37 資治通鑑 宋司馬光撰
- 38 陸狀元集百家註資治通鑑詳節 宋司馬光撰 宋陸唐老集注
- 39 資治通鑑釋文 宋史紹撰
- 40 續資治通鑑長編撮要 宋李壽撰
- 41 皇朝編年綱目備要 〔宋九朝編年備要〕 宋陳均撰
- 42 通鑑紀事本末 〔嚴州小字本〕 宋袁樞撰
- 43 通鑑紀事本末 宋袁樞撰
- 44 東都事略 宋王稱撰
- 45 國語 吳章昭注 〔補音〕宋宋庠撰
- 46 陸宣公中書奏議 唐陸贄撰
- 47 石林奏議 宋葉夢得撰 葉模編
- 48 國朝諸臣奏議 〔宋諸臣奏議〕 宋趙汝愚編
- 49 歐公本末 宋呂祖謙撰
- 50 新雕名公紀述老蘇先生事實
- 51 新刊名臣碑傳琬琰之集 宋杜大珪編
- 52 新刊指南錄 宋文天祥撰
- 53 歷代故事 〔諸史節要〕 宋楊次山編
- 54 新編方輿勝覽 宋祝穆撰
- 55 咸淳臨安志 宋潛說友撰
- 56 重修毗陵志 宋史能之撰
- 57 麗澤論說集錄 宋呂祖謙撰
- 58 眞西山讀書記乙集上大學衍義 宋眞德秀撰
- 59 西山先生眞文忠公讀書記 宋眞德秀撰
- 60 武經七書

子部

- 57 麗澤論說集錄 宋呂祖謙撰
- 58 眞西山讀書記乙集上大學衍義 宋眞德秀撰
- 59 西山先生眞文忠公讀書記 宋眞德秀撰
- 60 武經七書

- 61 名公書判清明集 宋龍安時撰
- 62 傷寒總病論 宋龐安時撰
- 63 新雕孫真人千金方 唐孫思邈撰
- 64 外臺秘要方 唐王焘撰
- 65 史載之方 宋史堪撰
- 66 重校證活人書 宋朱肱撰
- 67 雞峰普濟方 〔宋孫兆撰〕 賈兼重校
- 68 普濟本事方 宋許叔微撰
- 69 太醫張子和先生儒門事親 金張從正撰
- 70 太醫張子和先生儒門事親 金張從正撰
- 71 金壺記 宋釋道之撰
- 72 書小史 宋陳思撰
- 73 愧鄉錄 宋岳珂撰
- 74 自警編 宋趙善瑋編
- 75 白氏六帖事類集 唐白居易撰
- 76 唐宋白孔六帖 唐白居易撰 宋孔傳編
- 77-1 太平御覽〔陸心源本〕 宋李昉等奉敕編
- 77-2 太平御覽〔竹添本〕 宋李昉等奉敕編
- 77-3 太平御覽〔他的一本〕 宋李昉等奉敕編
- 78 冊府元龜 宋王欽若等奉敕編
- 79 重修事物紀原集 宋高承撰
- 80 東萊先生分門詩律武庫 宋呂祖謙編
- 81 錦繡萬花谷
- 82 新編通用啓劄截江網 宋熊晦仲編
- 83 揮塵錄 宋王明清撰
- 84 夷堅志 宋洪邁撰
- 85 歷代編年釋氏通鑑 宋釋本覺撰
- 86 般若燈論 唐釋波羅頗迦羅蜜多羅譯
- 87 四分律刪補隨機羯磨疏 唐釋道宣撰
- 88 首楞嚴義疏注經 宋釋子璿撰
- 89 金剛經義疏刊定記 宋釋子璿撰
- 90 四分律含注戒本疏行宗記 宋釋元照撰
- 91 四分律行事鈔資持記 宋釋元照撰
- 92 涅槃經疏三德指歸 宋釋智圓撰

收錄書目一覽

- 93 大方廣佛華嚴經疏 唐釋澄觀撰 宋釋淨源疏注
94 大方廣佛華嚴經疏 唐釋澄觀撰 宋釋淨源疏注
95 大方廣佛華嚴經疏 唐釋澄觀撰 宋釋淨源疏注
96 華嚴經疏科 唐釋澄觀撰
97 大方廣佛華嚴經疏疏演義鈔 唐釋澄觀撰
98 大方廣佛華嚴經疏疏演義鈔 唐釋澄觀撰
99 華嚴一乘分齊章義疏 唐釋道忞撰
100 阿毗達磨大毗婆沙論 (說一切有部發智大毗婆沙論) 唐三藏玄奘譯
101 南華真經注疏 晉郭象注 唐成玄英疏
102 莊子膚齋口義 宋林希逸撰 劉辰翁點校

集部

- 103 李太白文集 唐李白撰
104 新刊校定集註杜詩 唐杜甫撰 宋郭知遠編
105 王右丞文集 唐王維撰
106 昌黎先生集 唐韓愈撰 李漢編
107 唐柳先生文集 唐柳宗元撰
108 元氏長慶集 唐元稹撰
109 浣花集 唐韋莊撰
110 王黃州小畜外集 宋王禹偁撰
111 古靈先生文集 宋陳襄撰
112 王狀元集諸家注分類東坡先生詩
113 周益文忠公集 宋周必大撰
114 東萊呂太史文集 宋呂祖謙撰
115 東萊呂太史外集 宋呂祖謙撰
116 後村居士集 宋劉克莊撰
117 文選 (六臣註本) 梁昭明太子蕭統編 唐李善等六臣註
118 唐百家詩選 宋王安石編
119 三蘇先生文粹 宋蘇洵·蘇軾·蘇轍撰
120 皇朝文鑑 (宋文鑑) 宋呂祖謙編
121 迂齋先生標註崇古文訣 宋樓昉編
122 後山居士詩話 (百川學海零本) 宋陳師道撰

元版

經部

- 123 周易兼義 魏王弼·晉韓康伯注 唐孔穎達等疏 陸德明音義
124 周易兼義 (十行本十三經註疏之一) 魏王弼·晉韓康伯注 唐孔穎達等疏 陸德明音義
125 周易程朱先生傳義附錄 宋董楷撰
126 周易集說 元俞琰撰
127 附釋音尚書註疏 (十行本十三經註疏之二) 舊題漢孔安國傳 唐孔穎達等疏 陸德明音義
128 書(集傳纂疏) (尚書纂疏) 宋蔡沈傳 元陳樸撰
129 書(集傳纂疏) 元董鼎撰
130 附釋音毛詩註疏 (十行本十三經註疏之三) 舊題漢毛亨傳 鄭玄箋 唐孔穎達等疏 陸德明音義
131 詩(集傳附錄纂疏) 宋朱熹傳 元胡一桂纂疏
132 詩(集傳通釋) 宋朱熹集傳 元劉瑾通釋
133 詩攷 (韓魯齊三家詩攷) 宋王應麟撰
134 附釋音周禮註疏 (十行本十三經註疏之四) 漢鄭玄註 唐賈公彥疏 陸德明釋文
135 儀禮圖 儀禮旁通圖 儀禮 (十行本十三經註疏之五) (圖)宋楊復撰
136 儀禮(集說) 元敖繼公撰
137 附釋音禮記註疏 (十行本十三經註疏之六) 漢鄭玄註 唐孔穎達等疏 陸德明釋文
138 禮(記纂言) 元吳澄撰
139 儀禮經傳通解續 宋楊復撰
140 春秋經傳集解 晉杜預撰 唐陸德明釋文
141 附釋音春秋左傳註疏 (十行本十三經註疏之七) 晉杜預注 唐孔穎達等疏 陸德明釋文
142 音註全文春秋括例始末左傳句讀直解 宋林堯叟撰
143 監本附音春秋公羊註疏 (十行本十三經註疏之八) 漢何休解詁 唐徐彥疏
144 監本附音春秋穀梁註疏 (十行本十三經註疏之九) 晉范甯集解 唐楊士勛疏 陸德明釋文
145 春秋辨疑 宋蕭楚撰
146 春秋諸傳會通 元李廉撰
147 春秋諸傳會通 元李廉撰
148 春秋屬辭 (趙訪春秋四種之內) 元趙訪撰
149 春秋左氏傳補注 (趙訪春秋四種之內) 元趙訪撰

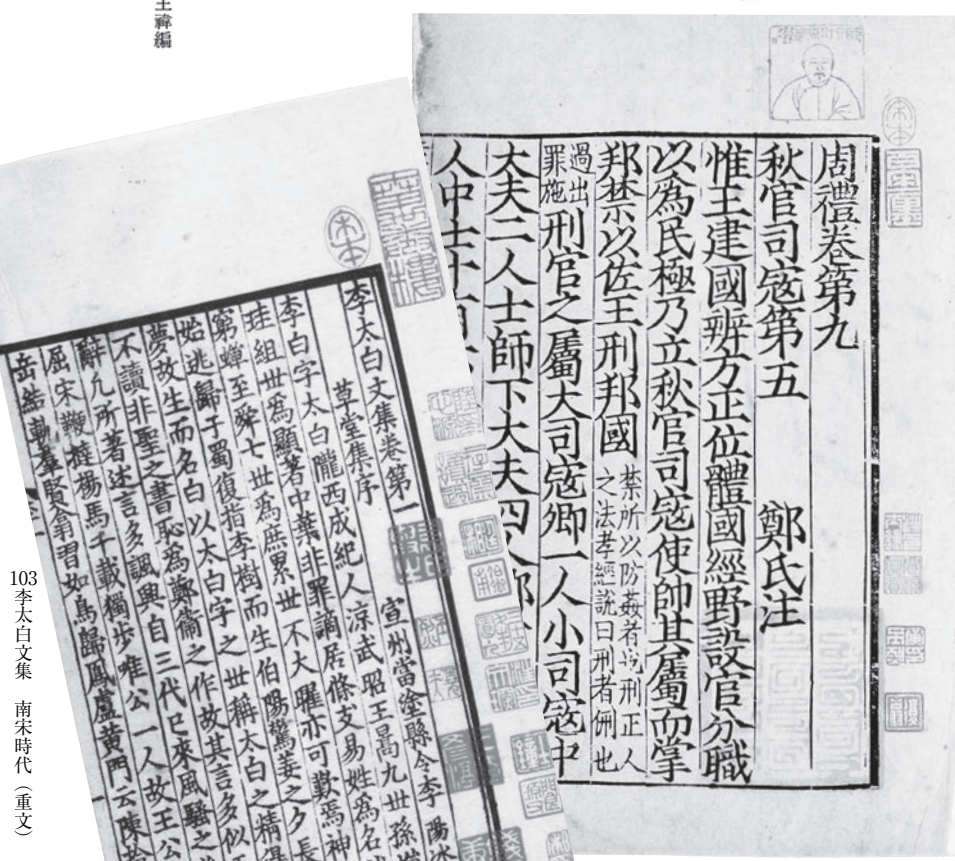
史部

- 150 春秋師說 (趙訪春秋四種之內) 元趙訪撰
151 論語註疏解經 (十行本十三經註疏之一〇) 魏何晏集解 宋邢昺疏
152 孟子註疏解經 (十行本十三經註疏之三一) 漢趙岐註 宋孫奭疏
153 四書纂疏 宋朱熹集註 趙順孫纂疏
154 說文字原 元周伯琦撰
155 大廣益會玉篇 梁顧野王撰 唐孫強校
156 漢隸分韻 元楊桓撰
157 六書統 元楊桓撰
158 六書統源 元楊桓撰
159 六書正譌 元周伯琦撰
160 增修互註禮部韻略 宋丁度撰 毛晃注 毛居正增
161 增修互註禮部韻略 宋丁度撰 毛晃注 毛居正增
162 草書禮部韻寶 宋高宗書 陳汝編
163 古今韻會舉要 元黃公紹原撰 元熊忠舉要
164 書學正韻 元楊桓撰
165 史記 漢司馬遷撰 宋裴駟集解 唐司馬貞索隱
166 晉書 唐房喬等奉敕撰 何超音義
167 隋書 唐魏徵等奉敕撰
168 南史 唐李延壽撰
169 北史 唐李延壽撰
170 唐書 (中字本) 宋歐陽脩等奉敕撰
171 遼史 元脫脫(托克托)等奉敕撰
172 資治通鑑 宋司馬光撰 元胡三省音註
173 資治通鑑考異 宋司馬光撰
174 增修陸狀元集百家註資治通鑑詳節 宋司馬光撰 宋陸唐老集注
175 通鑑前編 宋金履祥撰
176 通鑑續編 元陳經撰
177 續資治通鑑 (通鑑三種之一) 宋李燾撰
178 續資治通鑑 (通鑑三種之二) 宋劉時舉撰 元人追補
179 宋季三朝政要 (通鑑三種之三) (附)宋陳仲微錄
180 續資治通鑑 (續宋編年資治通鑑) 宋李燾撰

- 181 宋季三朝政要 宋孔晃注
182 汲冢周書 (逸周書) 晉孔晃注
183 通志 宋鄭樵撰
184 戰國策 宋鮑彪校註 元吳師道重校
185 註陸宣公奏議 唐陸贄撰 宋郎暉注
186 國朝名臣事略 (元朝名臣事略) 元蘇天爵撰
187 金陵新志 元張鉉撰
188 幽蘭居士東京夢華錄 宋孟元老撰
189 通典 唐杜佑撰
190 增入諸儒議論杜氏通典詳節 元馬端臨撰
191 龜山先生語錄 宋楊時撰 陳淵等編
192 新刊音點性理羣書句解 宋熊節編 熊剛大集解
193 新刊圖解素問要旨論 金劉守真撰 馬宗素重編
194 新刊晁范句解八十一難經 周秦越人撰 宋李昉句解
195 傷寒論注 漢張機撰 金成無已注解
196 張仲景註解傷寒百證歌 宋許叔微述
197 新編張仲景註解發微論 (新刊河間劉守真傷寒直格) 金劉守真撰 葛維翰校
198 重刊孫真人備急千金要方 (後集) 宋洪興撰 葛維翰校
199 經史證類大觀本草 宋唐慎微撰 曹孝忠校
200 新編證類圖註本草 宋寇宗奭撰 許洪等校
201 本草衍義 宋寇宗奭撰
202 濟生拔粹方 元杜思敬輯
203 新刊風科集驗名方 金趙大中撰 元趙素補
204 新刊惠民御藥院方 元御藥院編
205 新編南北經驗醫方大成 元孫允賢編
206 至大重修宣和博古圖錄 宋王黼等奉敕撰
207 呂氏春秋 秦呂不韋撰 後漢高誘注
208 白虎通德論 後漢班固撰
209 冷齋夜話 宋釋惠洪撰
210 新編古今事文類聚 宋祝穆編 (新集·外集) 元富大用編

- 211 新編古今事文類聚 宋祝穆編
212 新編事文類聚翰墨大全 (翰墨全書) 宋劉應李編
213 太學重新增修決科截江網
214 山堂先生羣書考索 宋章如愚編
215 玉海 宋王應麟編
216 韻府羣玉 元陰時夫編 陰中夫註
217 新增說文韻府羣玉 元陰時夫編 陰中夫註
218 新編排韻增廣事類氏族大全
219 師子林天如和尚語錄 元釋惟則撰 元釋普遇編
220 道德經註 宋蘇轍撰
221 關尹子言外經旨 宋陳顯微撰
222 清庵先生中和集 元李道純撰 蔡志願編
223 箋註陶淵明集 晉陶潛撰 宋李公煥註
224 分類補註李太白詩 唐李白撰 宋楊齊賢註 元蕭士贊補註
225 分類補註李太白詩 唐李白撰 宋楊齊賢註 元蕭士贊補註
226 集千家註分類杜工部詩 唐杜甫撰 宋徐居仁編 黃鶴補註
227 須溪先生校本唐王右丞集 唐王維撰 宋劉辰翁校
228 香溪先生范賢良文集 (香溪集) 宋范浚撰 高格編
229 晦庵先生朱文公文集 宋朱熹撰
230 晦庵先生朱文公文集 宋朱熹撰
231 張文忠公文集 (雲莊類稿) 元張養浩撰
232 元松鄉先生文集 元任士林撰
233 趙子昂詩集 元趙孟頫撰 元譚潤編
234 筠溪牧潛集 (天隱禪師文集) 元釋圓至撰
235 清容居士集 元袁桷撰
236 道園遺藁 元虞集撰
237 新編翰林珠玉 元虞集撰
238 檜亭集 元丁復撰
239 金華黃先生文集 元黃潛撰 危素編 劉耳校
240 黃文獻公集 (初集) 元黃潛撰 (續集上) 元危素編 (中) 元王禕編 (下) 元傅藻編
241 順齋先生閑居叢藁 元蒲道源撰 蒲機編
242 陳象仲文集 元陳旅撰

- 243 梧溪集 元王逢撰
244 二范全集 宋范仲淹·范純仁撰
245 樂府詩集 宋郭茂倩編
246 文章正宗 宋真德秀編
247 翰苑英華中州集 金元好問編
248 註唐詩鼓吹 金元好問編 元郝天挺注
249 國朝文類 (元文類) 元蘇天爵編
250 洞霄詩集 元道士孟宗寶編
251 新刊類編歷舉三場文選 元劉仁初編
252 中州啓劄 元吳宏道編



清朝末期の最も著名な蔵書家、陸心源遺書が9割を占める

マイクロフィルム+オンライン版

静嘉堂文庫所蔵

宋元版

宋版の厳密な校勘を経たテキストは学術発展の基礎となり、日本の学界にも大きな影響を与えた

印刷史、哲学、歴史学、文学、医学など東アジアのあらゆる分野の史的研究に不可欠な史料

重要文化財に指定されている宋版18点を含む静嘉堂文庫所蔵宋元版258部5182冊は、永らく門外不出とされ文庫の奥深く秘蔵されてきた。原典保護の観点から文庫での閲覧もマイクロフィルムに限られてきた。今回特別に静嘉堂文庫の許可を得て、従来のマイクロフィルムに加え、オンライン版としても広く公開される運びとなった。

仕様：マイクロフィルム：35ミリ ポジティブロールフィルム
(モノクロ) 1セット648リール + オンライン版

付属解説：『静嘉堂文庫宋元版図録』図録篇・解題篇
(汲古書院 平成4年刊) 2巻 リールガイド1冊

編集・発行：公益財団法人 静嘉堂 静嘉堂文庫

セット価格：21,384,000円(消費税別)

対象資料：全258部5182冊
宋版(金版1部9冊を含む)127部2629冊
元版131部2553冊



103 李太白文集(重文) 30巻首目1巻

オンライン版について

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター

閲覧ブラウザ：Internet Explorer 11。Microsoft Edgeの場合、Internet Explorerモードでの閲覧になりますので、ご注意ください。

- オンライン版のご利用には、別途利用契約書のご提出が必要となります。ご契約は機関契約に限ります。
- 画像は閲覧のみとなります(印刷・ダウンロード不可)。リモートアクセスはできません。

*購入の際は購入申込書をご記入いただき静嘉堂の許可を得てからの頒布となります。

*分売ユニット価格設定があります(ユニット以下の分売不可)。

宋 版				
ユニット	資料番号	部	リール数	価格(税別)
1	1 ~ 16	経部	15	¥495,000
2	17 ~ 23	史部	30	¥990,000
3	24 ~ 32	史部	33	¥1,089,000
4	33 ~ 36	史部	29	¥957,000
5	37 ~ 43	史部	30	¥990,000
6	44 ~ 追補 253	史部	27	¥891,000
7	57 ~ 77-1	子部	38	¥1,254,000
8	77-2 ~ 77-3	子部	40	¥1,320,000
9	78 ~ 102	子部	38	¥1,254,000
10	103 ~ 122	集部	36	¥1,188,000

元 版				
ユニット	資料番号	部	リール数	価格(税別)
11	123 ~ 140	経部	31	¥1,023,000
12	141 ~ 164	経部	31	¥1,023,000
13	165 ~ 170	史部	35	¥1,155,000
14	171 ~ 182	史部	35	¥1,155,000
15	追補 256	史部	30	¥990,000
16	183 ~ 190	史部	29	¥957,000
17	191 ~ 209	子部	21	¥693,000
18	210 ~ 214	子部	29	¥957,000
19	215 ~ 222	子部	30	¥990,000
20	223 ~ 230	集部	30	¥990,000
21	231 ~ 252	集部	31	¥1,023,000

【総販売代理店】 ※ 一般書店ではお取り扱いしておりません

M MARUZEN-YUSHODO 丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 開発部

〒160-0002 東京都新宿区四谷坂町10-10 Tel: 03-3357-1449 Fax: 03-4335-9419 Email: archives@maruzen.co.jp http://myrp.maruzen.co.jp/

Y-15002 May 2022